

R7年12月定例会一般質問（松井邦人）

令和7年12月定例会にあたり、富山市議会自由民主党より一般質問を行います。始めに、予算編成方針について伺います。

令和8年度予算は、藤井市長の二期目として最初の予算編成となります。

11月4日の市長記者会見で発表された予算編成方針や今回の提案理由説明によると、給与所得の増加や固定資産税の增收などが見込まれる一方、人件費や扶助費、公債費といった義務的経費の増加や公共施設の継続的な改修、さらには人口減少や少子化等の対策など、大きな財政需要が見込まれています。

さらに、国では物価高騰対策などを柱とした総合経済対策を取りまとめ、補正予算を編成する予定です。

令和8年度予算編成に当たっての基本的な考え方と国の総合経済対策への対応についてお聞かせください。

また、来年度の市税収入は、今年度当初予算を上回る見込みと聞いています。

一方で、国においてはガソリンの暫定税率の廃止が決定され、年収の壁への対策についても検討されており、地方財政に大きな影響がでることを懸念しています。

現時点での令和8年度の市税の収入見込みについてお聞かせください。

次に、上下水道事業について伺います。

上下水道局では、富山市上下水道事業経営審議会からの答申を受け、令和8年4月1日から水道料金と下水道使用料を改定することとなりました。

7月26日から10月25日までの3か月にわたって、料金改定に向け本市の上下水道事業の現状と課題を知るために市内11か所でタウンミーティングを開催し、参加者は延べ269人にのぼったと聞いています。

一連のタウンミーティングなどを通じ、本市の上下水道事業について市民の理解や関心がどの程度広まったと考えているのか事業管理者の見解をお聞かせください。

また、引き続き市民の理解や関心を高めていくために、上下水道局では今後どのような取り組みを行っていくのかお聞かせください。

本年1月に発生した埼玉県八潮市における道路陥没事故や4月に発生した京都市の国道1号線での水道管破裂による漏水事故など、全国では上下水道施設の老朽化が原因とされる事故が多発しています。

本市も例外ではなく、先月、中心市街地の富山電気ビル前の交差点において、敷設から60年が経過した配水幹線の漏水事故が発生しました。

今回の漏水事故の経緯とその対応についてお聞かせください。

幸い今回は大事に至らずホッとしていますが、本市は広大な市域を有しており、他の自治体と比べて水道だけでなく下水道も含めて管路や基幹施設など、膨大な資産を有しています。

今後、増大する老朽資産について、その維持管理や更新をどのように対応していくのかお聞かせください。

次に、中心市街地活性化について伺います。

本市は、平成19年2月に全国第1号認定となる「中心市街地活性化基本計画」を策定しています。

この計画の下、本市の「顔」となる中心市街地の活性化に取り組み、人口減少と超高齢社会に適応し、多様な世代が活力ある地域社会の中で安心・安全で健康に暮らすことができる総合力の高いまちづくりを推進しています。

現在、令和4年度から令和8年度までを計画期間とした第4期中心市街地活性化基本計画に基づき、中心市街地の都市像として「魅力的な都市空間を舞台に未来を担う人材が生まれ、笑顔あふれる活力あるまち」を目指しています。

この都市像の実現に向け「公共交通と都市空間」、「商業と賑わい」、「暮らし」の3つの観点から計画に位置付けられた事業に取り組んでいます。

「公共交通と都市空間」の観点では、令和2年3月に富山駅路面電車南北接続事業が完成し、令和5年7月にオーバード・ホール中ホールが開館したことや令和9年3月にはアイスホッケーの国際規格対応のスケートリンクを備えた複合施設がオープン予定など、魅力的な都市空間が生まれてきています。

「商業と賑わい」の観点では、トランジットモールやグランドプラザでイベントなどが開催され、中心市街地の賑わいが生まれてきています。

「暮らし」の観点では、まちなか居住推進事業による支援などにより、まちなかの居住需要が高まり、今も民間資本による再開発事業が続くなど好循環が生まれています。

第1期から第4期までの約20年間にわたる中心市街地活性化基本計画に基づく取組みに対する評価と今後の課題をお聞かせください。

令和5年度富山市歩行者通行量調査報告書の富山駅周辺地区と中心商業地区における5月休日と8月平日の歩行者通行量の近年の推移を見ると、コロナ禍で通行量は大幅に減少しましたが、新型コロナウイルスが5類感染症に移行してからは再び増加傾向にあります。

富山駅周辺地区と中心商業地区における歩行者通行量調査で見えてきた、それぞれの地区的強みと課題について見解をお聞かせください。

歩行者通行量を年代別に見ると、富山駅周辺地区は、20代から30代の割合が40%台と最も高く、10代も10数%と40歳未満の割合が半数を超えてます。

この地区は、若者にとって魅力的な商業施設や飲食店などが集積していることに加え、通学や通勤で日常的に通行することもあり、若い世代から「選ばれる地区」となっています。

これに対し中心商業地区は、20代から30代と40代から50代がそれぞれ30%を超える、40歳以上の年代で約6割を占めていますが、20歳未満に至っては5%台と、かなり少ない状況です。

一方で、平成20年からグランドプラザで冬期間に開催しているエコリンクでは、1か月間の入場者数が約8,000人で、その内の7割が20歳未満となっており、若い世代にとって魅力的なイベントがあると人出が多くなっています。

中心商業地区には、子どもが楽しめるイベントなどが少ないので、歩行者の年齢層も高く、年齢構成に偏りがある状態が続いていると考えます。

この地区は、これまで再開発なども含めた「ハード面」から都市空間を整備することで、賑わいの創出を目指してきましたが、「ソフト面」が不足することで若い世代の日々の暮らしの中で、繰り返し訪れる場所になれないと考えます。

中心商業地区において 20 歳未満の訪れる人が少ない要因をどのように捉えているのか、また、この課題にどのように対応していくのか見解をお聞かせください。

中心商業地区での年代別歩行者通行量を見ると、総曲輪通りや中央通りに魅力的な商店や映画館に溢れていた時代に、「富山の街に行く」と言って頻繁にまちなかを訪れた世代が、回顧的に訪れている側面もあると思います。

将来にわたり幅広い世代に継続的に訪れてもらうためには、私たちの子供時代にそうであったように、中心商業地区が 20 歳未満の若者からも「選ばれる地区」となるための大胆かつ柔軟な取組みが求められていると考えます。

私も含め、人には初めて訪れた場所は何故か遠く感じることがあります、同じ場所を何度も繰り返し訪れるうちに、その距離感が次第に縮まるという心理的効果があります。

実際に私の子供は、映画は郊外のショッピングセンターで観るものだと思っていました。

しかし、我が家では映画を観る時は、ユウタウン総曲輪に行くようにしました。

最近は残念ながら一緒に行ってくれなくなりましたが、行き慣れた場所となつたことで子供たちだけで映画を見に行く時はユウタウン総曲輪に行ってています。

また他都市では、選ばれる地区となるために子どもや子育て世代のファミリー層を対象とした天候に左右されない屋内施設を設けている所があります。

本市は、梅雨の時期や冬場に子どもを外で遊ばせにくい上に、近年の猛暑もあって夏場も遊ばせにくいと悩んでいる子育て世代が多くいます。

本市に住んでいる子育て世代の中で、子どもたちが安心して体を動かせる屋内施設などを求める声が年々高まってきています。

さらに、令和 5 年 6 月に「こどもまんなか応援サポーター宣言」をしたことからも本市の顔である中心市街地に子どもたちが健やかに遊び、成長できる環境を整える必要があると考えます。

中心商業地区に、子どもや子育て世代のファミリー層が訪れたくなる屋内施設などが必要だと考えますが、見解をお聞かせください。

また、グランドプラザやウエストプラザ、大手モールではイベント開催日には局所的に多くの来場がありますが、その来場者の商店街への回遊性は余り見受けられず、グランドプラザと総曲輪通りの間には「見えない壁があるのではないか」と囁かれています。

グランドプラザなどのイベントによる集客を商店街へ回遊させるためには、より一層の創意工夫を凝らした行政と商店街が一体となった取組みが求められると考えますが、見解をお聞かせください。

本市では過去に中心市街地回遊行動に関する調査と分析を実施し、中心商業地区を訪問した人がどのような行動をしているかを分析しています。

中心商業地区に 2 時間以上滞在している人のうち、自家用車で来た人が 25% に対して、公共交通で来た人は 60% と約 2.4 倍となっています。

また、自家用車で来た人の平均滞在時間は 93 分で平均歩数が 1,126 歩なのに対して、公共交通で来た人は 179 分、2,023 歩と約 2 倍近くとなっています。

公共交通利用者は、滞在時間が長くなり周囲の環境や施設をより広範囲に探索したり、詳細に見たりする時間的余裕が生まれ、自然と移動距離や歩数が増える傾向にあると考えます。

さらに、複数の研究で一日の平均歩数と医療費との関連が分析されており、平均歩数が多いほど医療費が安い傾向にあると報告されています。

このことからも中心商業地区に来た人の平均歩数を自然に増やす環境づくりが一段と求められると考えます。

自家用車で来た人も含め、中心市街地における平均歩数をどのように増やしていくべき良いと考えているのか見解をお聞かせください。

中心商業地区の駐車場を無料にすると、店舗や施設利用者以外の不正駐車が発生しやすいという問題があり、買物金額などに応じた駐車場無料サービスが実施されています。

現在、グランドパーキングでは、参加協力店舗で2,000円以上の買い物をすると2時間の駐車場無料サービスを受けられ、ユウタウン総曲輪パーキングでは、映画館で1,800円以上利用すると3時間の駐車場無料サービスが受けられます。

加えて、買い物をしてお客様に安心して長時間滞在してもらうという狙いから、両方を活用すると最大5時間無料となる取組みも行われています。

時間があれば買い物や食事、観光、散策など、より多様な活動が可能となり、それぞれの活動には移動が伴うので、歩く歩数が増加することにつながります。

また、大和富山店が現在の場所への移転を検討した当時に、総曲輪通りの東側にあった西武と西側に移転する大和の2つの百貨店を通りで繋ぎ「2核1モール」として、面的にまちなかの回遊性を高めることも計画されていたと伺っています。

現在、中心商業地区にはグランドプラザや総曲輪フェリオ、TOYAMAキラリ、ユウタウン総曲輪、総曲輪BASE、令和9年3月オープン予定のスケートリンクなど各施設の集客をエリア全体に波及できる力を持った複合商業施設が揃っています。

しかし、人間の心理として駐車料金の無料時間に制限があると、制限時間内に合わせて目的の活動に集中し、移動も短距離で済ませる傾向があります。

時間的な制約をなくすことは、中心商業地区で回遊するきっかけとなり、行動範囲や活動量、さらには消費の拡大にもつながり、結果として歩く歩数が増え、健康寿命の延伸にも効果があると考えます。

中心商業地区に訪れた人の滞在時間と平均歩数を増やすために、駐車場無料サービスの時間を延長すべきと考えますが、見解をお聞かせください。

本市がこれまで取り組んできた中心市街地活性化は市税収入にも反映しており、令和7年度当初予算約796億円の46%を占める固定資産税と都市計画税の内、中心市街地分が23%もあります。

加えて、平成24年度と令和7年度の比較では、固定資産税と都市計画税の市域全体での伸び率が16.9%に対して、中心市街地は17.2%と中心市街地の活性化が税収入全体を牽引してきたと言えます。

このことは、中心市街地以外への税の還流という観点からも合理的であり、本市の税制基盤の強化にもつながっていると考えます。

しかし、さらなる中心市街地の活性化を促進するためには、富山駅周辺地区と中心商業地区の回遊性を高め、商業だけでなく文化や教育など、あらゆる視点から中心市街地の全体としての魅力向上を図ることが必要不可欠だと考えます。

特に、中心商業地区においては令和9年3月に中央通りD北地区の再開発も完成し、

ハード面での環境が整いつつあるので、これからは若い世代や子育て世代、高齢者など多くの人が集い、楽しく時間を過ごせる空間づくりといったソフト面の充実に重点を置き、部局横断で取り組んでいくべきと考えます。

本市が将来を見据えた中心市街地の魅力ある空間づくりに部局横断で取り組んでいくことについて見解をお聞かせください。

以上で、質問を終わります。

(5, 245文字)